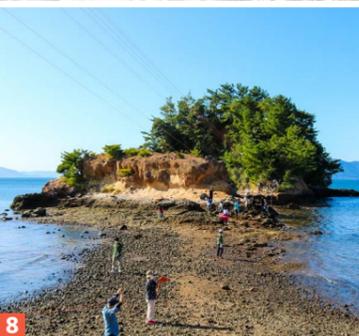




【写真説明】

1 このプロジェクトを発案したアーティストの五十嵐靖晃さん / 2 9糸を1本ずつ陸側から弁天島に渡して張っていく / 3 4 9月の制作実験時に100糸の糸を約100本制作 / 5 糸をカー杯引張る / 6 日が暮れると日中とは違った美しさが楽しめる / 7 最後の糸は参加者全員でつないだ / 8 潮が引くと渡れるようになる弁天島 / 10 11 シェルターと弁天島に設置した柱に糸を結びつけた



五十嵐さんは「《海渡り》を通じて、自分たちの暮らしや自然との関わり方、未来に伝えていきたい大切なことを再確認するような機会にしたい」と話していました。今後も秋には町内外の人々が共に弁天様への祈りを込めて《海渡り》を受け継いでいきます。

弁天島は赤崎地区と干潮時に陸続きになる島で、頂上に海辺の集落を見守るように弁天様がまつられています。明治時代にはすでに執り行われていたとされる集落の「弁天様のお祭り」も、近年は高齢化などで継承が難しくなっていました。《海渡り》は、古くから地域に伝わる弁天信仰を住民と共にアートの力で再構築し、人々と協力しながら後世に受け継いでいくことを目指す新しいかたちのアート作品です。

10月10日(日)、五十嵐靖晃アートプロジェクト「つなぎまちのつなぎかた」で展示する作品《海渡り》の制作が旧赤崎小学校近くで開かれました。住民約70人が参加し、弁天島の島居と陸をつなぐ約百本の糸を張っていき

【フォトレポート】五十嵐靖晃 《海渡り》

赤い糸で、海と陸をつなぐ

2018年から津奈木町の歴史や風土のリーサーを続けてきたアーティストの五十嵐靖晃さん。新作《海渡り》は、継承が難しくなったまつりを地域と共に新しいかたちで再生させる作品です。人々が紡いできた地域の営みを、海と陸をつなぐ無数の糸で表しました。